

第2回西東京市商店街振興プラン策定委員会 議事録

日 時：平成14年6月27日（木）14:00～16:00

場 所：西東京市役所田無庁舎202会議室

出席者：委 員（政所委員長、金委員、深沢委員、高崎委員、中村委員、
奥田委員、池田委員、弓田委員、石部委員）

西東京市（市民生活部長、産業振興課長、主幹、課長補佐、係長、主査）

（財）東京都中小企業振興公社 多摩中小企業振興センタ - 課長補佐（安田）

（株）日本能率協会総合研究所（高橋）

欠席者：委 員（高市副委員長）

1. 資料の確認

（省略）

2. 前回議事録の確認

異議なし

3. 商業・商店街振興の基本理念・基本方針について

資料1、資料2、資料3に基づき説明。

（議事）

政所委員長 資料の中で、わかりにくいところはないか。事業メニューにはカタカナがたくさんあり、わかりにくいのではないか。

深沢委員 新たな担い手のところにある「市民ファンド」とは？

事務局（高橋） 市民の生活を豊かにする、例えば新しいコミュニティビジネスを起こしたいとき、市民からお金を募ってそれを基金として積み立て、それを起業家に資金面で援助していくというようなやり方がある。

政所委員長 中間支援機関をもう少し説明してほしい。

事務局（高橋） 市民の様々なビジネスをサポートしていくため、店の借り方や運営の仕方等をアドバイスしたり、サポートしたりする組織のこと。行政が関わるのは難しい場合でも第三者機関だとスムーズにいくことがある。非常に難しい問題ではあるが、長期的な方向では重要なことでだと考えている。

政所委員長 商業用語については、商業者はある程度理解できるが、市民委員には非常にわかりにくいので、用語集をつけてほしい。

資料で提供しているものは、あくまでも全国の様々な活動の中から、西東京市での取り組みも考えられるのではないかという案であるので、さらに深めて具体化していきたい。

高崎委員 田無駅前でいうと、この辺りは銀行が多いため、夜8時過ぎからは非常に暗い。街が8時で終わりという状況である。明るさからいうと、ひばりヶ丘とは

雲泥の差がある。

また、一番の問題は駐車場問題である。誘導するシステムが全くなく、道路が混んでしまう。駐車場対策を考えた上で街づくりを考えることが大切である。

事務局（松永） アスタの周りには民間の駐車場はいくつかあるが、街に入る手前での駐車場の空き状況は提示されていない。それをしないと街の発展はないと考える。しかし、新たに駐車場を作ることよりも、今ある駐車場（民間資源）を活用したい。

ただ、道路整備や再開発を行うだけでなく、商業振興と連携して、街の中に住民を留めていく街づくりを考えなくてはならない。

高崎委員 流れがよくなれば、渋滞がなくなり、田無駅周辺に行きやすくなる。

政所委員長 基本方針から取り組みのイメージをさらに具体的に進めて、優先順位のまとめに入っていくので、もっと具体例を示してほしい。

深沢委員 落ち着いて買い物ができる商店街はほんの一画しかない。車が危なくて、買い物どころではないというところが結構、見受けられる。

土日だけでも金融機関の駐車場を開放してもらおうという話があるが、具体的には進まない。

深沢委員 金融機関の駐車場の開放を行政の指導で行えないか。

事務局（松永） 行政が動くのは簡単であるが、それより地域がどれだけやる気があるのかが大事ではないか。

高崎委員 駅前だけの問題ではない。

事務局（松永） 例えば日頃から金融機関と地域が、どこまで連携しているのかが大事である。

政所委員長 こういう委員会がきっかけで、話し合っていくことになる。

今のように金融機関の駐車場を開放してほしいということ等、具体的に出てくることが重要である。

金融機関を開放している例もあるが、金融機関の側から言うと土日手薄の中での管理、また事故が起きればどうするかが問題となる。お互いに管理をどうするか。かといって、地域と隔離しては成り立たない企業なので、それをどうするかという取り組みもある。

金委員 銀行も本来は商店街の一員であり、商店街活性化の役割を担っている。しかし、コミュニケーションがとれていないので、商店街の一員でありながら、一員でない面も持っている。したがって、商店街の人達が自分の街をどうしていくか。同時点にたたないと一致団結はむずかしいのではないか。

基本理念については、漠然として盛りだくさんなので、どれが重要か、また優先順位をつけることが難しい。

政所委員長 今の段階では、市民や商業者の要望、それも具体的なことが突破口になってくる。

高崎委員 不動産屋、床屋等、明るさを保てる店ではない。中だけを明るくしても表が暗いとさみしい街になる。街灯に頼るしかないが、街灯だけではとうてい無理。

中村委員 銀行なども閉めると暗い。田無の駅前を活性化するためには、まず明るくしなければならない。

政所委員長 都市計画と街づくりと商業戦略が同じ土俵で話し合っていないという大きな

問題点が一つ出てきた。同じ場、同じテーマで話し合うことが大前提である。

金委員

駐車場がいっぱいあればいいということでもなく、路地があれば心が安らぐので、そういう機能が街には必要である。大型店へ行くまでの道路が通過路であってはいけない。目的地に行くまでふらふら歩けるから楽しい街になる。

車を駅前に駐車するのではなく、その手前に置いて散歩できるような仕組みが必要である。そのために、ある商店街ではカートで街を通過させる計画を持っているところもある。

石部委員

西東京市全体の商店街をそれぞれ振興させていくのか。どこか一部を特化してプランを策定するのかによって、進め方がかなり違ってくる。

資料はよく全体をまとめてピックアップしているが、ここから一点を選ぶのは難しい。

街を活性化していくにはお客さんがこないと活性化はできない。どういう客層の人達が集まった街にするのか（例えば、若者の街、お年寄りの街、ファッションの街等）、又は市民参加を基本とした街にするのか、西東京市商店街の基本理念がはっきりしていない。

また、全部の商店街を一度に活性化させるというのは、現実問題として無理である。中心的な街のイメージをつかって、そこではどういうハードが必要か。行政と商店街の中心的なメンバーや第3セクターとで、ソフト面でどうしていくか、段階を追わないと意味がない。

政所委員長

確認すると、「西東京市広域商業診断報告書」が前提となり、次のステップとしてこの委員会がある。これまでの調査を前提とし、今現在の具体的なものをアクションプログラムとして出していけないと、商業地の活性化は解決していかない。

極めて一商業者の個人的な問題であっても、それは街づくりにとってはかなりの解決のきっかけとなるので、具体的な個別意見を話していただきたい。

弓田委員

東伏見の夜は怖い。駅から早稲田のグラウンドを通過して帰ってくるが、途中にコンビニや喫茶店があるくらいで、商店街に寄って帰るといった雰囲気ではない。

柳沢もそんなに明るくないし、さみしい。何とかならないかと思う。

地元の人が行きやすい商店、商店街がまず先決で、その中で特色ある店があると発展するのではないか。地元の人が行きたい、足を運ぶということが基本である。品質、鮮度、価格の充実に加え、おしゃれな雰囲気のお店や、簡単にお茶をできるようなところがあるとよい。

例えば、八百屋に活気があると主婦はうれしい。新鮮で、低価格、産地の表示があり、お店の人が元気だといい。でも、怖いところを通過して行くより、坂のない平地で街路樹があり、春は桜が咲き、夏は木陰を歩いていける武蔵野市に行ってしまう。

奥田委員

西東京市は高齢化の街だと思う。年寄り二人で生活した場合には街の商店街が頼りになる。

生鮮三品の八百屋、肉屋、魚屋がないと生活が難しくなり、また商店街としての意味がなくなる。歩いて行ける範囲に生活を守る商店街がないと街として

機能しない。

金委員

商売が成り立たないのに、不足業種を誘致することは難しい。業種を問わず、空き店舗が無くなるよう、消費者のニーズやコミュニケーションを考え、個店を増やすことが重要である。

政所委員長

地域にあった形で、街路灯の設置や車歩分離、コミュニティ道路などを市に要望していく必要がある。

例えば、柳沢の駐輪場や歩行者天国のように、地域の規模にあった手立ての仕方も必要である。商店街の真ん中に駐輪場があり、買い物に便利である。

また、明るくするというのは街灯だけでなく、店の元気な挨拶も明るくなる要因とである。

その辺がキーワードのヒントになる。

池田委員

田無の商店街を30年間ずっとみているが、よくなる手立てを打っている姿がみえない。益々悪くなる一方である。

商店街をつくったから人が来るのではなく、人が歩くと商店街ができると思った方がよい。

武蔵境の商店街をみてきたが、車を迂回させて商店街の中を通さないようにしてうまくいっている。商店街では、お年寄りの方でも自転車に来て、薬屋で買い物し、店の前に駐輪したままで、イトーヨーカ堂に行っている。街全体が店の前が駐輪場でもよい、街全体のお客という理解をしている。

例えば、柳沢はエコマナー、田無は駐輪場、中央通り周辺は昼間でも歩ける店を増やすなど、それぞれ個別の具体策でやっていく必要がある。

商店の人の意見では、「お客さんに親切にする」「丁寧にする」が一番多いが、例えば高い物で吉祥寺と勝負をしてもしょうがない。地元の人を対象にし、日常買ってくれるものを商品とするとか、親切とは、丁寧にされることだけではなく、自転車が通りやすい、自転車をおける場所を提供するなど、店の中だけの問題ではない。

広範囲に検討するよりも、商店街に合ったことをやり、行政がそれをバックアップすることが大事ではないか。

政所委員長

各地の商店街の個性を活かす戦略ということであれば、商店街の規模にかなり差がある。

地区別の商店街の該当する意見(消費者、商店主側から)をピックアップし、地図と合わせてつくってほしい。

不足業種はむずかしいという意見が出たが、奥田さんの意見に該当する商店街はかなりあるように思う。

パブルの時になくなった業種というのは、魚屋、本屋、喫茶店であり、東京都では壊滅状態である。しかし、この3つは商店街ではとても重要な役割を占める。魚屋は解説も値段の内、本屋は過ごす時間が商品、喫茶店は回転率で稼ぐところと、回転率が低いからこそ存在価値があるところと2極化している。

谷中商店街では全商店60店舗のうち、魚屋4軒、豆腐屋2軒、本屋3軒、そば屋は3軒ある。すぐそばに、大型店やデパートがあるので、お年寄りしか買いに来なくなった。魚屋でも同じ物売っているのではなく、さしみが得意な

ところ、加工品が得意、貝類が得意など、バッティングしていない。また、本屋でも半分プラモデルを置いているところなどがある。魚屋は1軒だけでなく、2軒、3軒誘致する。集積が集積を呼ぶことになる。

全部の商店街には該当しないが、西東京市の中の一部は、将来、高齢者にやさしい商店街ということで、生き残っていくことは可能ではないか。

石部委員

特化するの大切なことであるが、どういう形で特化するか。

全体の方向としては、高齢者が買いやすい店をどうしていくか、高齢者を中心に考えていってもよいのではないか。

また、西東京市ではなんでもそろろうというデータベースをつくる。そこにアクセスすればどこにあるかわかるシステムをつくる。これに関しては、商工会、行政の関わりも必要である。

中村委員

保谷では大型店がどんどん進出しており、商店街としては商売のやり方がわからなくなっている。

保谷の商工会を中心に生き残り策を考えているところであり、銀行へも預金できるような方法で、共通カードを発行して全体でやるなどの案もでている。成功すれば、生き残れるのではないか。

政所委員長

データベース化の発展の可能性はあるのか。

中村委員

ある。勉強している最中である。

現在、共通スタンプづくりの実施を考えている。

石部委員

スタンプのレベルだとそんなにはインパクトがない。

デビットカードやエコマネーを本格的に取り入れるとインパクトがでる。

金委員

ポイントカードは商店街の事業主の意識の持ち方で変わる。成功しないところは、発券率が悪いことが多い。例えば生鮮食料品などが売れ残る場合には、値下げを行ってでも鮮度保持に努め、消費者の信頼を勝ち取っていくことが大事ではないか。そうした意識改革が必要である。

政所委員長

成功しているところは、スタンプとイベントなど、スタンプと何かがかくっついている。

事務局（長谷川）平成13年度から商工会でホームページを立ち上げており、平成14年から創業支援として事業を始める。そういうものもひとつの方法論として、商店街活性化の位置づけにしていきたい。

事務局（鴨下）

ホームページを活用してもらおうと、店の情報がわかる。

石部委員

ホームページも大事だと思うが、高齢者の人達がどの程度ホームページをみるかが問題である。

キャッシュレス化を図り、デビットカードのような形を思い切って導入し、ポイント制とリンクさせる。金融機関との関連があるので面倒かもしれないが、本気で考え、活性化させるためのものであれば、デビットカード的なものを入れて、そのシステムの中にポイント制や別の特典を入れる。例えば飛行機のマイレージカードに似たようなものでもよい。こういうシステムは個人では不可能だが、商工会、行政のバックアップがあれば不可能ではない。

事務局（松永）

今、研究会を立ち上げている。

37の商店街がそれぞれの特徴を出しながら、何とか生き残っていけないか。

最寄りの商店街を意識した資料をこれからつくっていく。全て同じにいかない
ので、今後の街づくりの方向性を踏まえながら考える。

例えば、ひばりヶ丘では都営住宅跡地の再開発や、住友重機の跡地（約 10 万
㎡）の開発があり、住宅が増え、人口も 1 万人ぐらい増える。そうすると、今
のひばりヶ丘の駅舎はこのままでよいのか。また、ひばりヶ丘以北では駅を降
りると公道がない。

東伏見南口ではプール跡地が近々変わる予定であり、石神井川の改修工事も
始まる。しかし、早稲田のグラウンドは無くならず、周辺の街づくりをどうし
ていくか。など、行政が抱える問題もある。

政所委員長 合併して、ハード、ソフトの面で事業はどうなるか。また、縦割りを解消で
きず、寄せ集めのまま終わるのか。様々な意味で、西東京市は全国で注目され
ている。

安田委員 ハード面の開発は予算面等で難しくなっており、商店街のソフト面に施策的
なものを中心を置かざるを得ない状況になっている。しかしただ商店街のソフ
ト事業をやっても人が集まらず、個店の売り上げ増大につながらない。個店の
経営の強化策が一番の原点である。いくら商業施策を考えても受け皿となる商
店街が衰退してしまうと受け皿がなくなる。

個店経営につながる意見を地域消費者としての立場から出していただいたほ
うが役に立つ。

地域的にみて、ひばりヶ丘、田無にしても問題はあるが、特に、西武柳沢、
保谷駅周辺の問題が大きく、安全性の面で問題を優先して解決していかないと
いけない。

たとえば、谷中商店街は役員のリーダーが優れている。それほど人通りはな
いが、地域消費者に絞って頑張っている。

墨田区たちばな銀座商店街もポイントカードやシルバーを対象にし、高齢者
を対象にした商店街である。

武蔵境スキップ通りはとなりの三鷹や吉祥寺と比べて立地的によくはないが、
活発な商店街活動を行っている。カラー舗装をきっかけに西側にとりつけ道路
ができ、都市計画が成功した例である。

全国的に衰退している中でも頑張っている商店街があるので、今後も情報提
供をしていきたい。

政所委員長 具体的な切実な意見が出てきた。石部さんからデビットカード、データベ
ース化という意見が出ているが、例えばこういうものの事例があれば情報提供し
てほしい。また、住民参加型の街づくり、高齢者にやさしい、おもてなし（配
達運動や荷物預かり）など、ささやかな取り組みも考えられる。

意見として、駐車場の問題から始まり、街は歩いて楽しくきれいなところ、
住民参加や不足業種の誘致（賛否両論ある）など、この商店街はこれが必要だ
というのを明らかにしていきたい。地域の個性を活かすことが基本である。

4 . 次回の日程の確認

7月23日（火）9：30～ 203会議室